

開基100年の  
シンボルマークと標語です



このシンボルマークの意  
味は、港湾、水産農林業、  
商工業を3つの矢に表わし、  
未来に向かって前進する姿  
を表現し、矢は濃紺、受け  
る空白部分は明るいオ  
レンジです

## 《留萌市開基100年記念号》



# 躍進する二世紀の留萌へ

留萌市長 東田孝一

美しい日本海と、目にしみる緑の山並みに囲まれた留萌市が、明治十年戸長役場を設置、この年を開基の年と定めてから百年、昭和十一年留萌港が国際貿易港の指定を受け、この年を開港の年と定めて四十年、また、昭和二十二年十月、市制を施行以来三十年という、ほんとうに意義深い年を迎えましたことを心からお喜び申し上げますとともに、留萌市二世紀の第一歩を祝福できますことは、誠に感慨深いものがあります。

顧みますと、早くから未開のこの地に足を踏み入れ、きびしい自然の脅威や恵まれぬ環境とたたかい、いばらの道を切り開いた先人の血のにじむような労苦を糧にちようど一世紀、その歳月の中から我が留萌は着々と発展の歩みを続け、今や管内の中核都市として、また、道北の海の玄関口として大きな役割りを担う青年都市として躍進途上にありますことは、既にご承知の通りであります。

また、戦後間もない昭和二十二年十月、まだまだ社会は混乱した状態の中で市制施行でありましたが、以来今日まで激動する社会経済情勢の中で、脈脈と留萌のまちづくりが進められてきたことは、市民皆様のご理解とご協力によるものであり、心から感謝の念を新たにしますものです。

お蔭で、まちづくりの基礎をなす生活基盤の整備促進、また、経済安定の中核をなす留萌港は、重要港湾の指定を受けてから今日まで躍進の一途をたどり、今や道北の門戸は勿論、経済圏の中心をなすまでに生長し、より強固なものとして整備が進みますことは、誠に心強い限りといえましょう。

さらに、教育・文化・体育・福祉等に関する公共施設整備も整いつつあり、香り高い留萌市民形成の場と、健康で明るい市民生活の場を二世紀に引き継ぐことができますことを、市民皆様とともに喜びたいと思います。

しかし、私たちはここで、謙虚に過去をふり振り返り、今日から始まる二世紀への第一歩を深く胸に刻みながら、力強くまちづくりの歩を進めることこそ、二世紀、三世紀の留萌市民に引き継ぐ遺産でもあらうと思えます。

私は、この記念すべき年を機に、心から父祖の偉業に感謝の念を捧げるとともに、逞しい開拓の魂を受け継ぎ、新しい時代に向かって豊かなまちづくりの輪を、市民皆様とともに広げてゆきたいと思えます。

るもい

'77 10月

第235号